

## マチ活 information

### 1 探求型フリースクール「マチラボ」 コワーキングスペースで開校

「マチラボ」は9月、不登校を支援する全国初の探求型フリースクールとして、コワーキングスペース「COMMUNE BASE マチノワ」(中町3-10-6)を活用する形で開校しました。平日に学校以外の居場所を探す12~17歳が対象で、毎週月曜の午前10時~午後4時に開校。詳細や申し込みは<https://machida-labo.com/>へ。

プロハウス本町田(本町田1143-1まちなもり本町田)は今年3月にオープンし、入居者を募集しています。独立した専用の住居と共用スペースで、新しい人との関わりをつくりながら、自由に楽しく安心して暮らせる住まいです。建物見学は随時開催。詳細は[https://peraichi.com/landing\\_pages/view/collectivehouse](https://peraichi.com/landing_pages/view/collectivehouse)へ。

TSUTAYA町田木曾店、久美堂(本店、小田急店、四丁目店、本町田店、玉川学園店)、BOOKOFF SUPER BAZAAR町田中央通り店(12月未まで。延長の可能性あり)。詳細は<https://www.machidaehon.com/>へ。

### 2 地域活動サポートオフィス まち“だ”づくりカレッジ

町田市地域活動サポートオフィスが、団体の活動計画をつくる伴走型連続セミナー『まち“だ”づくりカレッジ』を開催しています。1回のみ参加も可。各回テーマは、第3回「事業計画を考える」(12月24日午後1時~5時、オンライン)、第4回「広報・情報発信とファンディング計画」(1月28日午後1時~5時、同)、第5回「最終報告会」(2月25日午前10時~正午、場所未定)。詳細や申し込みは<https://machida-support.or.jp/event/college2020-02/>へ。

### 4 高ヶ坂・祥雲寺の「寺フェス」 出展者やボランティアを求む

「寺フェス2021春の陣」の実行委員会は、イベントの出展団体や実行委員、当日ボランティアを募集しています。開催は3月20日(土)・21日(日)、祥雲寺(高ヶ坂7-15-1)。坐禅体験、キッチンカー、雑貨店などが開かれます。開催時間は各日午前9時30分~午後4時。申し込みや問い合わせは実行委員会(担当和智) [terafes.info@gmail.com](mailto:terafes.info@gmail.com)へ。

### 経済的に困難な母子の出産費へ 基金箱を設置して頂けませんか

「ワン&オンリーのちの会東京・町田」は、NPO法人円プリオ基金センターの町田支部です。同基金は、経済的に困難な妊婦やお腹の赤ちゃんを助ける出産費用として使われます。エンプリオは8週までの胎児のことで、体重は1円玉と同じ1グラム。「円」と「エン」をかけた「円プリオ基金」のため、基金箱を設置する家庭や学校、事業所を募集しています。問い合わせは(担当矢野) [h.june-0101@alpha.ocn.ne.jp](mailto:h.june-0101@alpha.ocn.ne.jp) ☎090-9493-1922へ。

### 5 「まちだ旅する絵本」の 旅の仲間になりませんか

「まちだ旅する絵本」は、絵本を受け取った人が1カ月以内に次の人に渡し、1冊の絵本で12人のつながりをつくる取り組みです。参加するには、絵本が持ち寄られる「旅立ちイベント」に参加するか、書店で「旅する絵本台帳セット」を購入し、自分で選んだ絵本を旅立たせる。販売店は

### 3 自主運営型コレクティブハウス 3月にオープン、入居者募集

NPO法人コレクティブハウジング社の運営する北欧発祥の賃貸住宅「コレクティブ

### 町田市 市連は、特殊詐欺被害撲滅へ 「サギ110番の家」防犯プレートを掲示

「町田市町内会・自治会連合会(市連)」は、特殊詐欺に対する市民の防犯意識の高揚を図るため、町田警察署、南大沢警察署、町田市と連携し、「サギ110番の家」と記載された防犯のプレートを、町内会・自治会を通して地域の各所に掲示します。

防犯プレートを町内会・自治会の防犯担当の家や地域の掲示板等に掲示することで、地域の防犯意識を高め、地域全体で特殊詐欺被害の撲滅に取り組んでいることを対外的に発信します。市連が5千枚の防犯プレートを作成し、11月から市連加入の約220団体に配布しています。



### 町田市 公園をもっと楽しむスマホアプリ 「PARKFUL(パークフル)」

公園情報アプリ「PARKFUL(パークフル)」では、市内全公園の地図や写真、遊具、利用者のコメントを掲載しています。「現在地から近い公園」「トイレのある公園」といった検索が可能です。

アプリのダウンロードはこちらから



App Store



Google Play



あの日の残り香を探して...

## てくてく昭和



たくさん食べてもらうことが「おばちゃん」こと河野さんの喜び。ボリュームも料金も、36年間ほぼ変わらない

## 食欲旺盛な学生のオアシス

### サクラランボ

「大学のそばだから、いいんじゃない？」——河野鎌子さんが矢部町の店舗兼住宅を人に紹介されたのは、エリマキトカゲが大流行した1984年。大学生と高校生の息子の学費で出費がかさむ時期のことだった。パートタイマーとして喫茶店で働いていたが、「今より家計の足しになるかもしれない」。サラリーマンだった夫を助けた一心から、経験を生かして定食屋を開くことを決意する。

店名は目と鼻の先にある桜美林大学にちなみ「サクラランボ」。トントン拍子で開店の日を迎えたが、「きつと学生が来てくれる」という期待は崩れ去る。当時周囲は畑ばかりで、頼みの綱である学生なしに経営は立ち行かない。そもそも需要がなかったのか。

だが、「母は強し」だった。客足が伸びない状況にへこたれず、5年間休みは一日もなし。すると、周囲で始まった開発が助け舟となり、土木作業員らが連日押し寄せるようになった。かわ

い店名に似合わず、皿からはみださんばかりの鶏の唐揚げなどボリューム満点でリーズナブル。噂が噂を呼

び、店はいつしか学生たちのオアシスとなっていた。

20席ほどの店内が、体育会の男子学生で埋まる日もある。「サクラランボのおばちゃん」と呼

んでくる学生たちは、河野さんにとって孫の年代だ。試合に招かれることも多いが、「野球はともかく、アメフトはルールが分からない」。それでも、「おばちゃん来てくれた！」と喜んでくれる姿をみれば、駆けつけ

ないわけにいかない。勝てばともに喜び、負けた時はサッと帰る。「落ち込む顔は見られたくないでしょうから」

一番人気はチキンカツ定食。ハンバーグカレーなど、学生のリクエストで誕生したメニューもある。材料費が上がっても、料金は開店当初からほぼ同じ。ボリュームを減らすこともない。

「僕の筋肉はおばちゃんのご飯から出来上がりました」「実家より実家でした」。壁に貼られた寄せ書きには、河野さんを母のように慕ってきた卒業生の言葉が並ぶ。新型コロナウイルスの影響で経営は苦しい。だが、「おばちゃん、やめないでよ」という声に励まされ、もう少し皆の母でいるつもりだ。



町田市矢部町2693 ☎042-797-4728 営業11:00~14:00 土・日・祝定休